

町会内への防犯カメラの新設は来年度以降へ

安全で安心して暮らせるまちづくりを実現するために防犯カメラの設置は極めて重要です。町会は今年度、5台程度防犯カメラを設置しようと予算を確保し準備を進めてきました。ところが、令和3年度新設の申請受付はすでに終了しており、さらに助成金の内容も前年度から大きく変更されていることが判明しました。その結果、町会の計画は大きく後退せざるを得ないことになりました。これまでの防犯カメラ設置に対する補助率は12分の11を東京都と八王子市、12分の1が町会負担となっていました。新基準では6分の5が都と市、町会負担は6分の1と変更になり、このため、1台約42万円の防犯カメラの町会負担は70,000円でこれまでの倍の金額となってしまいます。さらに、補助の対象台数も1団体当たり1台までとなってしまうため、町会は八王子市に対して、台数の制限を撤廃してほしいと要請しましたが「補助金は東京都が6分3、八王子市が6分の2であるため、八王子市だけの判断ではできない。多くの町会・自治会からも設置要望がある」とのことに変更が受け入れませんでした。

町会の防犯カメラの必要性と立場は変わることはありませんので、来年度に新設する方向で「希望調査票」を八王子市へ提出しました。併せて、町会は八王子市町自連に対して、補助率、補助対象台数の見直しについて強力に取り組むように申し入れを行いました。また、町自連横山北地区に対しても理解と協力を呼びかけました。



プラスパータウン造成工事計画の住民説明会

コロナ禍との関連で開発認可が大幅に遅れていた第3期プラスパータウン造成計画は、認可の時期がほぼ判明したことから、工事工程等を含めた住民説明会を6月26日(土)に開催しました。これにはコロナ禍という厳しい環境でしたが隣接する5区、12区、13区の住民を中心に37名が参加しました。この説明会は、全体計画に対する理解を深めること、提起されている工事期間中における様々な対策を検証していくことでした。説明会では伐採した樹木の搬出で既存住宅内の道路使用、2か所ある土砂災害危険区域における崖面擁壁工事を中心に、騒音・振動、交通安全、作業時間および休日、連絡体制など多岐にわたり多くの疑問と要請が出されました。開発業者や工事施工業者、現場管理者から見解が明らかにされました。ただし、時間の関係もあり、土砂災害危険区域の工事については不十分だったために、関連する5区の住民説明会を7月17日(土)に再度開催することにして終了しました。(船田町会ホームページ参照)

町会短信

□ 令和3年度カラオケ運営委員会総会開催

町会のカラオケ機器の主な利用者は、レディースクラブ、船田友愛会と4つの同好会(うぐいす台、すみれ会、さつき会、パンダ)で、町会が入って運営委員会を構成しています。令和3年度の総会は6月14日、8名が出席して開催し、使用状況、これまでの問題点、今後の課題について協議しました。とくにカラオケ機器が故障した場合の修理費の負担のあり方について議論した経緯にふまえ、できる限り早急に結論を出すことにしました。



□ 自由が丘北側山林へ廃棄物の「不法投棄禁止」の立て看板設置

八王子市廃棄物対策課は6月8日、町会とさくら台自治会が要請した廃棄物置き場への不法投棄に対して「不法投棄禁止」の立て看板を設置しました。同時に巡回を強化して不審者を監視するとともに、住民からも通報してほしいとの連絡がありました。なお、山積している廃棄物は早期に撤去するよう業者の「らんあっぷ」の社長へ要請しているとのことです。

7月1日から31日まで犯罪抑止をめざし町会防犯部が同乗して「青パト」が12回巡回します。